

桶川市「道の駅」基本構想



平成24年8月

埼玉県桶川市



目 次

	ページ
1 「道の駅」の整備の目的	1
2 「道の駅」制度の概要	2
3 「道の駅」のコンセプト	3
4 「道の駅」の機能について	4
(1) 桶川市の魅力をアピールする場としての施設	
(2) 交流の拠点となるべき施設	
(3) 災害時防災拠点としての施設	
5 「道の駅」の整備内容について	6
6 「道の駅」の立地計画	7
7 「道の駅」の運営方法	10
8 「道の駅」計画への条件整理	11

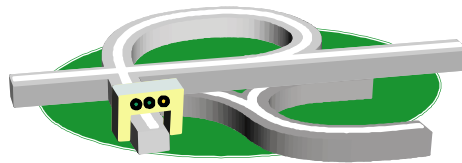
1 「道の駅」の整備の目的

桶川市は、東京から40km圏にあり、埼玉県のほぼ中央に位置しています。

今後10年の間には、市の北部を横断する首都圏中央連絡自動車道（以下「圏央道」という。）及び市の西部を縦断する上尾道路の全線開通が予定され、桶川市は県内でも有数の広域交通網の要となります。

不特定多数のドライバーの安全運転に寄与し、24時間いつでも休憩を取り、必要な情報を得ることができる「道の駅」本来の機能に加え、近年大きく期待されているのが、災害時における防災拠点としての機能です。東日本大震災において、「道の駅」が被災者の避難場所や支援物資の拠点となるなど、重要な役割をはたした「道の駅」があることから、防災拠点機能を兼ね備えた「道の駅」の整備に注目が集まっています。

広域交通網の結節点となる桶川市は、災害時における広域な範囲の防災拠点としての機能を有していると考えています。



また、「道の駅」は、本来の機能である「休憩施設」「情報発信機能」「地域連携機能」の3つの基本機能をはたし、災害時には、これらの機能を効率的・効果的に活用するとともに、桶川市の「文化・伝統・交流」を内外に伝え、魅力を体感し、知ってもらうことが重要です。

桶川市は、「**みんなで つくり 育む 活気あふれる交流拠点都市 おけがわ**」を将来像として掲げています。

「道の駅」は、桶川市の地域資源をアピールし、地域の魅力を伝え、訪れる人々が喜び楽しむことができる「交流の場」としての活用や、地域の人々も集い交流し、文化・伝統の継承・コミュニティの充実を図り、世代間を越えた交流等、さまざまな「活動の場」となります。互いの魅力を共感し、高め合うことができ、3つの基本機能を活かして「桶川ならではの」を表現することで、地域振興を図り桶川市の活性につながります。

このような機能を有する「道の駅」を整備し、災害時の防災・地域振興や情報発信など桶川市の魅力を様々な人に伝え、次世代に「桶川ならではの」を継承し、防災拠点や地域活性化につながる拠点として活用することを目的とします。

2 「道の駅」制度の概要

本構想の前提条件となる国土交通省「道の駅」制度の概要を以下のとおり、整理します。

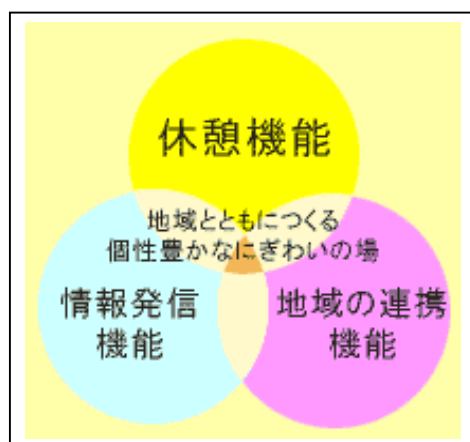
（１）「道の駅」制度の背景、目的～国土交通省道路局ＨＰより～

長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加するなかで、道路交通の円滑なながれを支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄れ、利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められています。

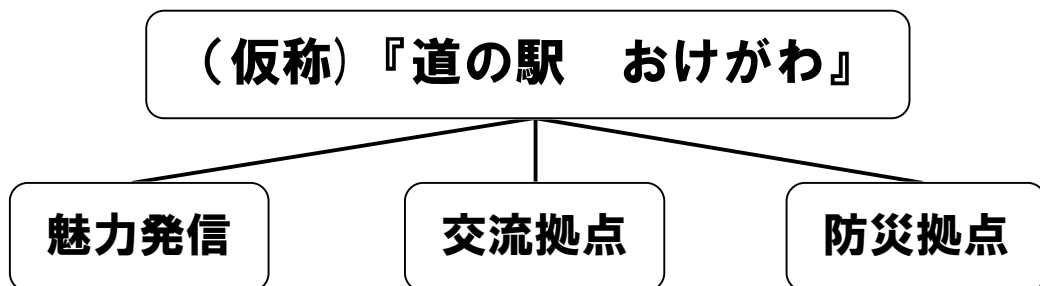
また、人々の価値観の多様化により、個性的でおもしろい空間が望まれており、これら休憩施設では、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し多様で個性豊かなサービスを提供することができます。

さらに、これらの休憩施設が個性豊かなにぎわいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待されます。

こうしたことを背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」、の3つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」が誕生しました。



3 「道の駅」のコンセプト



➤ 魅力発信「道の駅」

桶川市の魅力を積極的にアピールしていけるよう、桶川市の情報と特徴を紹介し、「道の駅」に集う人々にこれらを発信することで、「桶川ならではの」を体感し、共感してもらえることが重要となります。

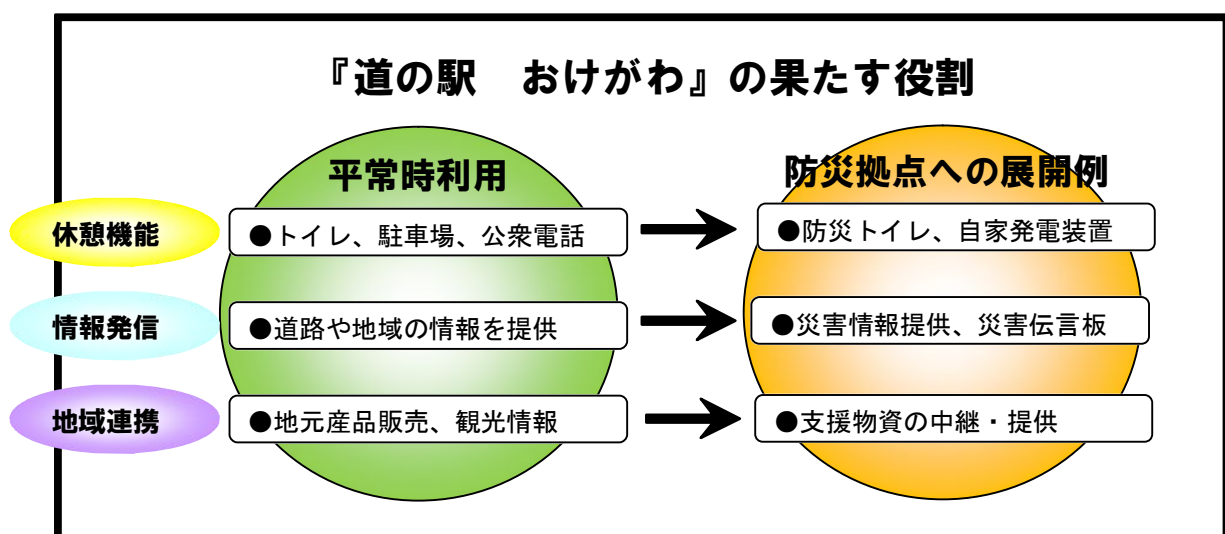
➤ 交流拠点「道の駅」

さまざまな人・モノ・情報が交流し、誰もが憩い楽しめる「桶川ならではの」を感じることができ、「またここに来たい」と思える空間をつくることが重要となります。

➤ 防災拠点「道の駅」

道の駅が災害時防災拠点として機能できるよう、だれでも利用できる駐車場やトイレなどの整備や避難者支援能力の確保が重要となります。

また、災害時、被災地への物流が滞る初期段階において、救援物資の運送に係る拠点として活用を図ることも重要です。



4 「道の駅」の機能について

道路網は、今日最も重要な交通手段となっておりますが、桶川市及び周辺地域には、道路利用者が利用できる公共的な休憩施設としての「道の駅」がありません。

車の運転中に適度な間隔で休憩をとることは、交通安全対策の面から考えても大変重要であり、「気軽に」「安心して」「24時間いつでも」利用し、運転による疲れを癒すことのできる「道の駅」は、道路利用者にとって必要な施設となります。

今後、圏央道及び上尾道路の全線開通が予定され、県道川越栗橋線が横断する桶川市は、広域交通網の結節点となり、この「道の駅」の必要性はより高いものになると考えられます。

利用者が求めるものを取り入れ、道路利用者にとって利便性が高く、使って楽しい、また行きたくなるような休憩施設としての「道の駅」設置の必要性が高まっています。

(1) 桶川市の魅力・活力をアピールする場としての施設

桶川市を訪れる人々に、桶川市の魅力・活力を伝えるための情報発信機能の強化が必要です。

地域において、心と命を育む「食」とそれを支える「農」の力を高め、地産地消を推進することは、産業の振興のみならず、教育・観光・健康増進など幅広い分野に関わりを持ち、地域活性化を進める上での基礎となるものです。

そこで、農・工・商が連携し、農産物直売所や加工施設、地元産の食材を使用する飲食店などを含めた「地産地消の拠点」を整備することは、地元農産物の消費拡大や産地の育成・振興、ブランド化による生産性の向上等に向けて、より効果的な農業振興施策の展開を可能とする有効な手段と考えられます。

また、広域交通網を活用し、各地の物産品（海の幸・山の幸）の販売やイベントの開催、既存施設を活用した展示や講座の開催等により、施設の魅力を高め、桶川市の文化の情報発信を行うことが考えられます。



（２）交流の拠点となるべき施設

市民の交流の場や活動の場として活用ができ、道路利用者と市民との交流が図れる仕組みづくりができる施設が必要です。

誰もが安心して利用できる快適な休憩施設を整備するとともに、道路情報や観光情報など様々な情報を提供することにより、通過交通を含めた道路利用者を桶川市のお客様として迎え入れることで、新たな交流を生みだします。

新鮮な農産物や優れた特産品・お土産品の販売、桶川ならではの食材を使った料理の提供、体験型の工房など、人が集まる魅力を高める必要性があります。

また、近年のサイクリング人口の増加に伴い、サイクリストも気軽に立ち寄れる施設の活用をすることで、多くの交流が生まれると考えられます。



「道の駅」を地域の個性を活かした賑わいの場として、桶川市を強力に内外にアピールし、地域イメージの向上と交流人口の増加を生み出します。

（３）災害時防災拠点としての施設

平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災において、「道の駅」が被災者の避難場所や支援物資の拠点基地となるなど、重要な役割を果たした「道の駅」があることから、「道の駅」の持つ防災拠点機能に注目が集まっています。

広域交通網の結節点として、人・モノの往来の多い地域となる桶川市にとって、市民、通勤者、来訪者、通行者の安全の確保を図るための、防災機能の整備・充実は、今後取り組むべき重要課題の一つです。

「道の駅」の基本的機能として２４時間使用可能なトイレなどを備えていても、発電設備等がないため、災害時等にはその機能が発揮できなかったという「道の駅」もありました。

そのため、近年、自家発電施設や防災トイレを備えた、防災拠点づくりを目指した「道の駅」整備が求められています。

5 「道の駅」の整備内容について

(1) 施設概要について

桶川市の道の駅に必要な施設は、次のとおり想定されます。

これらの機能・施設の中から、地域特性を踏まえて、計画を具体化する中で詳細を検討していくこととします。施設については、誰もが安心して利用できるよう、ユニバーサルデザインに十分に配慮します。

【道の駅登録に必要な必須施設】

○駐車場 ○トイレ ○電話 ○情報提供施設(情報コーナー、案内コーナー)

【桶川市の魅力・活力をアピールする場としての施設】

○桶川市の特産品や農産物、授産製品などを販売・PRするための機能
○地産地消の農産物等を使用したレストラン
○農産物を加工できるような機能
○情報を検索できるような機能
○伝統文化、食文化等の展示・体験機能

【地域交流の拠点となるべき施設】

○オープンスペースを確保して、市民が多目的に使用可能な機能
(伝統芸能の定期的な公開、市民発表の場など)
○将来的に様々な機能を「道の駅」に持たせていく
(道の駅を拠点としてレンタサイクルやウォーキング)
○周辺施設や観光情報の提供など交流促進を図る機能

【災害時防災拠点としての施設】

○自家発電機の設置 ○井戸の設置 ○飲料水備蓄タンク
○炊き出し可能な機能 ○防災トイレ ○被災に関する情報提供機能

【環境対策・新エネルギー利用促進としての施設】

○太陽光エネルギーの活用
○電気自動車の充電設備
○LED照明

(2) 施設規模について

敷地面積・建物規模等については、交通量、事例調査、整備事業費、採算性、用地確保の可能性等を踏まえて計画します。

6 「道の駅」の立地計画

埼玉県ほぼ中央に位置する桶川市周辺は、「道の駅の空白地帯」となっています。圏央道、上尾道路及び県道川越栗橋線と車両通行量が多くなり、広域交通網の結節点となる桶川市にこそ、「道の駅」は必要な施設と言えます。

(1) 「道の駅」の立地条件について

「道の駅」の機能を活かせる条件として、多くの人々が行き来し、訪れやすいことなど、広域的に人を集めることができることや、ドライバーの安全運転に寄与することなどを考慮すると、大型幹線道路の沿道が望ましいと考えます。

(2) 「道の駅」の予定地について

「道の駅」の予定地として、圏央道桶川北本インターチェンジ周辺で、上尾道路沿道の川田谷地内を想定します。この場所は、平成23年に圏央道桶川北本インターチェンジが開通し、今後開通が予定されている上尾道路と、桶川市を東西に横断する県道川越栗橋線とが交差する近辺にあります。埼玉県のほぼ中央に位置した桶川市は、広域交通網の結節点となる重要な位置にあります。予定地の西側には、約11haの広さを有する城山公園（総合公園）があります。また、予定地から約2kmの位置には、空輸機能を有する本田航空株式会社があり、施設内には、埼玉県が保有する「埼玉県防災ヘリコプター」が配備されています。

(3) 総合振興計画との整合性

「道の駅」予定地周辺は、「桶川市第五次総合振興計画」の中で、「観光まちづくり拠点」「コミュニティ拠点」として位置づけられており、人・モノ・情報が行き交う交流拠点都市として、市全域に活力を生み出すための計画的な土地利用を進めるものとしており、同構想の「広域交通網をいかしたまちづくり」というコンセプトと整合しています。



[illegible]

道の駅 おけがわ 予定地

[illegible]

7 「道の駅」の運営方法

「道の駅」開設後の管理運営については、採算性を確保しつつ、効果的な事業の展開・継続を担うことのできる体制を構築します。

桶川市「道の駅」建設にあたり、「道の駅」を整備することが最終目的ではなく、広域交通網の結節点という好条件をいかし「桶川市の魅力・活力発信」、「交流の拠点」「災害時防災拠点」などを実現するための効果的な運営を実現するのが最終目的です。

そのため、常に変化する利用者ニーズに柔軟に対応でき、また、交流の拠点としての機能をより発揮するために、「道の駅」を活用する運営主体を検討し、これらの多様な主体との連携による地域が一体となった運営方法が必要となります。

●運営組織に関する前提条件

国土交通省は、道の駅の設置者について「案内・サービス施設の設置者は市町村又は市町村に代わり得る公的な団体(以下「市町村等」という。)であること」としております。

「道の駅」登録・案内設置要綱の当面の運用方針

＜設置者＞

7. 市町村に代わり得る公的な団体とは以下の各号のいずれかに該当するものとする。
- イ. 都道府県
 - ロ. 地方公共団体が三分の一以上を出資する法人
 - ハ. 地域を代表して「道の駅」を設置するにふさわしいとして市町村が推薦する公益法人

8 「道の駅」計画への条件整理

計画を進めるためには、以下の点を検証する必要があります。

（１）交通について

- ①上尾道路の交通量に見合う駐車場、休憩施設を計画すること。
- ②大型車の進入が容易であり、十分な駐車場を確保するよう計画すること。
- ③上尾道路に対する出入口及び対向車線側からの入退場については、基本計画において道路管理者及び警察との協議を踏まえ計画すること。

（２）施設について

- ①投資効果を検証するためにマーケティング調査等行い、駐車場規模、想定利用者数の算定結果を基に、施設の適正規模を算出すること。
- ②上尾道路の通行車両から本施設が存在がわかりやすく、また、アクセスしやすい計画とすること。
- ③賑わいを生み出す施設を設け、来場者が利用しやすく交流の場となる計画とすること。
- ④地域の既存施設、観光資源や産業等との連携を考慮した計画とすること。

（３）財源について

- ①財源の確保にあたっては、各種補助金の活用を検討すること。

（４）推進体制について

- ①桶川市の「道の駅」は、災害時の防災機能を加えた「道の駅」です。桶川市にとって、重要な施策として位置づけ、全庁的な推進体制のもと、取り組みを進めます。
- ②「道の駅」の成功には、行政における総合的かつ強力な取り組みはもとより、地域振興のためには、地域の方々の協力が不可欠です。事業の推進にあたっては、地域の方々の機運や参加意識の向上を図り推進力となるような体制を検討します。

桶川市「道の駅」基本構想



策 定 桶川市『道の駅』基本構想策定検討委員会
編 集 桶川市総合政策部企画課
発 行 桶川市

〒363-8501 桶川市泉一丁目3番28号

TEL 048-786-3211(代表)

URL <http://www.city.okegawa.lg.jp>